

「森の巨人たち百選<sup>注)</sup>」に選定されている安蔵寺山の大ミズナラ（近畿中国森林管理局）

### 3 国有林野の林産物の供給

### 3 国有林野の林産物の供給

#### (1) 計画的な収穫の実施

国有林野事業では、木材等の林産物について、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を進めることを基本として、自然環境の保全等にも十分な配慮を行いながら、持続的・計画的な供給に努めています。平成23年度には、769万 $m^3$ の木材を収穫しました。

特に、現在、地球温暖化防止のための森林吸収源対策として、間伐等の森林整備を積極的に進めており、木材の有効利用の観点から、この森林整備の結果として得られる間伐材等の搬出・供給に取り組んでいます。

表－18 収穫の実施状況

(単位：万 $m^3$ )

区 分		平成23年度	(参考)平成22年度
主伐	水土保全林	36	45
	森林と人との共生林	2	3
	資源の循環利用林	116	113
	計	154	161
間伐	水土保全林	548	546
	森林と人との共生林	30	33
	資源の循環利用林	37	37
	計	615	616
主・間伐計		769	776

注 計の不一致は、四捨五入による。

表－19 民有林からの供給が期待しにくい樹種の素材(丸太)供給実績

(単位：万 $m^3$ )

樹 種 名	平成23年度	(参考)平成22年度
ヒ バ	1.2	1.1
木曽ヒノキ	0.1	0.3
天然秋田杉	0.1	0.1

事例 伊勢神宮の式年遷宮行事への木材供給

伊勢神宮では、20年に一度、御正殿を始め、御垣内の建物を全て建て替え、御神体を新宮に遷す「式年遷宮」が行われます。

現在、平成25年の「式年遷宮」に向けて、社殿等の建て替えが進められていますが、これらに必要な材料は供給が困難なため、木曽森林管理署及び東濃森林管理署から平成23年度は木曽ヒノキ147m<sup>3</sup>を供給しました。

(中部森林管理局 木曽森林管理署、東濃森林管理署)



場所：三重県伊勢市（上）、長野県木曽郡王滝村（下）  
 説明：写真は、遷宮諸祭の一つである立柱祭（御正殿の御柱をたてるお祭り）の様子（上）（神宮司庁提供）と、国有林から供給した木曽ヒノキ（下）です。

## (2) 林産物等の販売

平成23年度の木材販売量は、立木販売<sup>注)</sup>については9万m<sup>3</sup>減少して58万m<sup>3</sup>に、素材(丸太)販売<sup>注)</sup>については15万m<sup>3</sup>増加して213万m<sup>3</sup>となりました。

販売に当たっては、積極的に推進される間伐に伴い生産された間伐材等について、国産材需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む集成材<sup>注)</sup>・合板<sup>注)</sup>工場や製材工場等と協定を締結し、それに基づいて国有林材を安定的に供給する「システム販売」を推進しています。さらに、このような国有林材の安定供給により、エネルギー利用等の新たな需要の開拓にも取り組んでいます。

このほか、インターネット等を活用し、迅速かつ広範囲に公売情報を提供したり、民間市場への素材販売の委託を行うなど樹材種の特質に応じた有利な販売や販路の拡大に努めるとともに、多様な森林を有しているという国有林野の特性を活かし、民有林からの供給が期待しにくい大径長尺材や、木曽ヒノキ等の銘木を文化財の修復資材用などとして、販売を行っています。

このように、林産物等の販売に努力した結果、平成23年度の林産物等収入は、217億円となりました。

表－２０ 林産物等販売の状況

(単位：万 $m^3$ 、億円)

区 分	平成23年度		(参考)平成22年度	
	数 量	金 額	数 量	金 額
林産物等収入	—	217	—	220
立木販売	58	14	67	19
素材販売	213	184	198	182
その他	—	1	—	1
分収林等	191	18	158	18
(うち民収分)	(114)	—	(78)	—

注：1 数量は、立木販売、分収林等については立木材積で、素材販売については素材(丸太)材積で示している。

2 その他は、雑収である。

3 分収林等は、分収造林、分収育林、官行造林であり、金額は、それぞれの官収分となっている。

4 立木販売の金額には、立木販売のほかに環境緑化用樹木、立木竹及び幼齢木補償料等が含まれる。

5 計の不一致は、四捨五入による。

表－２１ 国有林材の販売単価の動向

(単位：百円/ $m^3$ )

年 度	平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23
立木販売	14	15	18	21	20	23	22
素材販売	135	130	118	107	85	92	86

注：販売単価は、立木販売については立木材積単位、素材販売については素材(丸太)材積単位の年間平均単価(実績)で示している。

### 事例 「システム販売」による安定的な木材供給

飛騨森林管理署では、新規需要開拓と安定供給が必要な間伐材等を、地元の合板工場等に「システム販売」により安定的に供給することにより、国産材の需要拡大に取り組んでいます。

また、その供給においては、民有林と共同で利用する中間土場において丸太の仕分けや大型トレーラーへの積み替えを行った上で需要者に直送するなど、流通の簡素化に取り組んでいます。

(中部森林管理局 飛騨森林管理署)



場 所：岐阜県高山市（上）、岐阜県中津川市（下）  
場 説 明：写真は、民国共同で利用している中間土場（上）の様子と、出荷された材  
が供給されている合板工場（下）です。

### 事例 木質バイオマス資源としての林地残材の有効活用

山口森林管理事務所では、林地残材等の有効利用を図るため、山口県森林組合連合会等と林地残材の活用について情報交換を行うとともに、燃料用チップ生産者等を対象とした現地検討会を開催し、林地残材の搬出方法等について意見交換を行うなど、需要者側の視点に立った民国連携による安定供給体制づくりに努めました。

(近畿中国森林管理局 山口森林管理事務所)



場 所：山口県山口市 なめらやま 滑山国有林  
 説 明：写真は、林地残材等の活用に関する現地検討会の様子（上）と、販売された林地残材等の様子（下）です。



フォワーダへの材の積み込み作業（東北森林管理局）

## 4 国有林野の活用

## 4 国有林野の活用

### (1) 国有林野の活用の適切な推進

#### ① 国有林野の貸付け

農林業をはじめとする地域産業の振興、住民の福祉の向上等に貢献するため、地方公共団体、地元住民の皆さん等に対して国有林野の貸付けを行っています。

また、東日本大震災に際しては、災害により発生したがれきの一時置場として、宮城県等に国有林野の無償貸付けを行っているほか、福島県では内閣府が設置する除去土壌等の仮置場用地として国有林野の使用を承認しました。

平成23年度末現在で約7万6千haを貸し付けており、その内訳は、農地や採草放牧地が約2割、道路、電気、通信、ダム等の公用、公共用又は公益事業用の施設用地が約5割を占めています。

表 - 2 2 国有林野の用途別貸付け状況

(単位：ha)

区 分	平成23年度	(参考)平成22年度
農耕・採草放牧地	11,529(15)	11,565( 15)
道路敷	14,877(20)	14,916( 20)
電気・電気通信事業用地	16,761(22)	16,485( 22)
ダム・堰堤敷	3,135(4)	2,947( 4)
鉱業用地	998(1)	1,011( 1)
森林空間総合利用事業用地	8,390(11)	7,901( 11)
その他	20,173(27)	20,196( 27)
合 計	75,864(100)	75,022(100)

注：1 貸付け面積は、各年度期末現在の数値である。

2 平成23年度の実績は、見込み値である。

3 ( ) 書は、合計に占める用途別の比率(%)である。

4 計の不一致は、四捨五入による。

### 事例 地域振興のための国有林の貸付け

鳥取県八頭郡智頭町<sup>やずちづ</sup>では、「森林は町の大切な財産」としてとらえ、森の持つ癒やし効果に着目した「森林セラピー<sup>注)</sup>」をまちづくりのメインテーマの一つとして取り組んでいます。

鳥取森林管理署では、町からの要請を受け、森林セラピーロードの一部として、休憩所やベンチ用地として国有林の貸付けを行い、地域振興に貢献しました。

(近畿中国森林管理局 鳥取森林管理署)



場 所：鳥取県八頭郡智頭町 沖ノ山<sup>おきやま</sup>国有林  
 説 明：写真は、貸付地を活用して整備された休憩所（左上）・ベンチ（右上）と、森林セラピーロードの概略図面の一部（下）です。

## ② 林野・土地の売払い

土地（庁舎、宿舎の敷地）については、国有林野事業の遂行に不可欠なものを除いて可能な限り売り払うことにしています。平成23年度には、6 haを8億円で売り払いました。

また、林野（森林、苗畑・貯木場の跡地等）については、公益的機能の発揮等に十分配慮しつつ、地域産業の振興や住民の福祉の向上等に必要とされるものについて、売払いを推進することとしています。平成23年度には、ダム用地や道路用地等として、378haを15億円で売り払いました。

なお、公売物件については、ホームページや新聞広告等を活用して最新情報を公開するなど、様々な販売努力を行っています。

表 - 2 3 林野・土地の売払い状況

(単位：ha、億円)

区 分	平成23年度		(参考) 平成22年度	
	面積	金額	面積	金額
林 野	378	15	487	28
土 地	6	8	9	6
計	384	23	496	34

表 - 2 4 林野・土地の用途別売払い状況

(単位：ha)

区 分	年度等	平成23年度		(参考) 平成22年度	
		林野	土地	林野	土地
所管換・所属替		293( 77)	- ( -)	403( 83)	0( 1)
公用・公共事業用		64( 17)	3( 50)	65( 13)	1( 11)
産業振興用		-( -)	-( -)	-( -)	-( -)
その他		21( 6)	3( 50)	19( 4)	8( 88)
計		378(100)	6(100)	487(100)	9(100)

注：1 ( ) 書は、計に占める用途別の比率(%)である。

2 「所管換」とは、他省庁への売払い、「所属替」とは、農林水産省内の他部局への売払いのことである。

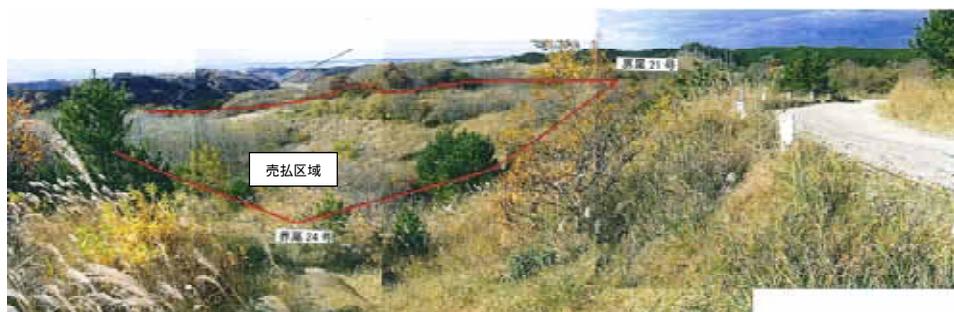
3 計の不一致は、四捨五入による。

### 事例 地域振興のための国有林野の売払い

青森県北津軽郡中泊町<sup>なかどまりまち</sup>では、既設の一般廃棄物処分場が数年内に埋立満了となることから、新たな処分場設置の検討を進めていました。

津軽森林管理署金木支署<sup>かなぎ</sup>では、中泊町から新たな処分場用地買受の要請を受け、事業内容の検討などを踏まえて一般廃棄物処分場用地として国有林野の売払いを行いました。

(東北森林管理局 津軽森林管理署金木支署)



場 所：青森県北津軽郡中泊町  
 説 明：写真は、売払区域を示した全景（上）と、一般廃棄物処分場の計画図面（下）です。

## (2) 公衆の保健のための活用の推進

国有林野事業では、優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林を「レクリエーションの森」に設定し、国民の皆さんに提供しています。

平成23年度には、延べ約1億3千万人の方々に利用していただきましたが、これからも利用者ニーズに即した魅力あるフィールドとして活用いただけるよう、地元自治体を核とした管理運営協議会と連携し、リフレッシュ対策に取り組んでいます。

また、「レクリエーションの森」では、利用者の方々に自主的に協力していただいている「森林環境整備推進協力金」や企業等からCSR（企業の社会的責任）活動の一環としていただく協力金も経費の一部として活用しつつ、国民の皆さんが快適に利用していただけるよう、森林や案内板・歩道等の整備、美化清掃、地図の作成等を進めています。

表 - 25 レクリエーションの森の現況及び利用者数

レクリエーションの森の種類	箇所数	面積 (千ha)	利用者数 (百万人)	代表地
自然休養林	89	104	26	高尾山、赤沢、屋久島、石鎚 <small>いしづち</small>
自然観察教育林	165	32	11	箱根、軽井沢、上高地
風景林	481	179	49	摩周、嵐山、宮島
森林スポーツ林	57	8	1	風の松原、扇 <small>おうぎ</small> の仙、西之浦 <small>せん</small>
野外スポーツ地域	196	46	29	八幡平、玉原、苗場 <small>はちまんたい たんぼら</small>
風致探勝林	108	20	12	層雲峡、駒ヶ岳、穂高 <small>そうらんきよう</small>
合計	1,096	388	127	

注：箇所数及び面積は、平成24年4月1日現在の数値であり、利用者数は、平成23年度の数値である。

### 事例 民間団体等による「レクリエーションの森」の環境整備等への支援

九州森林管理局では、鹿児島県熊毛郡屋久島町に「レクリエーションの森」として屋久島自然休養林及び大川の滝風景林を設定しています。この中には、樹齢千年を超える屋久杉をはじめとした屋久島の特異な生態系と優れた自然景観を比較的容易に鑑賞できる森があります。

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会とA株式会社ではこれらの森の環境整備や管理を行うための協定を結んでおり、平成23年度は自然休養林内の看板清掃や木製ベンチを作成、設置しました。

(九州森林管理局 屋久島森林管理署)



場 所：鹿児島県熊毛郡屋久島町 屋久島自然休養林  
 説 明：写真は、民間団体等のボランティア参加者が木製ベンチを作成する様子（上）と、記念撮影の様子（下）です。

## 事例 自然休養林のリフレッシュ対策

仁別<sup>にべつ</sup>自然休養林は、秋田市の東北方にそびえる太平山を主峰とする山々に取り囲まれた旭川上流部にあります。

秋田森林管理署では、この「レクリエーションの森」を快適なフィールドにするため、地元自治体や仁別自然休養林保護管理協議会などと連携し、地元の要望に応じた整備等に取り組んでいます。平成23年度は、ボランティア等による樹木見本園内の樹木の冬囲の設置・撤去や平成22年7月の集中豪雨により被災した箇所<sup>箇所</sup>の復旧工事等を行いました。

(東北森林管理局 秋田森林管理署)



場 所：秋田県秋田市 仁別自然休養林  
説 明：写真は、樹木見本園内の樹木の冬囲を撤去している様子（上）と、集中豪雨で被災した箇所<sup>箇所</sup>の復旧後の様子（下）です。

### 事例 森林セラピー基地での森林づくり体験型イベントの開催

山口県山口市の滑なめらやま山国有林は、地域を代表する樹齢200年以上の滑マツ（アカマツ）や樹齢100年以上のモミ等の巨木をはじめとする多様な森林が存在し、「森林セラピー基地」として活用されています。

山口森林管理事務所では、森林ボランティア団体や「基地」を主催する山口市と協力し、自然とのふれあいや癒やし効果を体感できる森林セラピーイベントの企画、実行支援を行いました。

(近畿中国森林管理局 山口森林管理事務所)



場 所：山口県山口市 なめらやま滑山国有林  
 説 明：写真は、後継樹育成のためのササの刈り出しを行っている様子（上）と、トレッキングする参加者達の様子（下）です。



りんじゃく  
輪尺で樹木の測定をする小学生（北海道森林管理局）

## 5 国有林野の事業運営

## 5 国有林野の事業運営

### (1) 管理経営の事業実施体制

国有林野事業は、ブロック単位の7森林管理局、流域単位の98森林管理署の下で、民間事業者へ委託できる業務は基本的に委託するとともに、ITの活用などに取り組み、効率的な管理経営に努めています。

#### 民間委託の推進

特に、伐採、造林等の実施行為については、民間事業者への委託化を基本としており、平成23年度は、伐採（素材生産）の全てに加え、人工造林、保育（下刈）についてもそのほとんどを民間委託により実施しました。

図 - 4 管理経営の事業実施体制

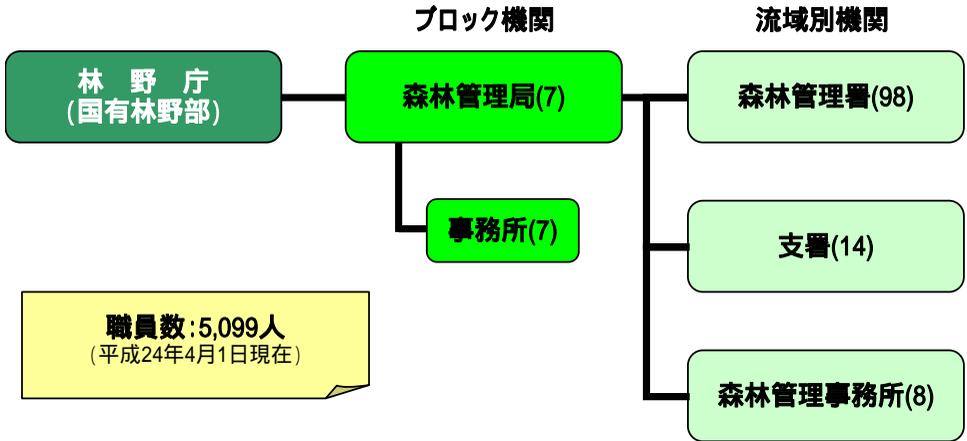


表 - 26 民間委託の実施状況

区分	平成23年度	(参考)平成22年度
伐採(素材生産)	2,078千 <sup>3</sup> m	2,043千 <sup>3</sup> m
委託	2,078千 <sup>3</sup> m (100)	2,043千 <sup>3</sup> m (100)
人工造林	3,691ha	5,136ha
委託	3,683ha (100)	5,126ha (100)
保育(下刈)	69,978ha	85,992ha
委託	69,884ha (100)	85,834ha (100)

注：1 ( )書は、全体に占める委託の割合(%)である。

2 分収造林における実績は、含まない。

3 人工造林及び保育(下刈)は、分収造林及びボランティアによる実施を除く。

## I Tの活用

平成23年度は、事務の簡素化やO A化等による事務処理の効率化を図るため、平成19年度に運用を開始した新たな事務処理システムの安定的な稼働や、機能の充実に努めました。

また、施業計画や路網計画の作成、災害時の現地調査など国有林野の管理経営に、森林G I S<sup>注)</sup>を活用しています。

## 労働安全衛生の確保

平成23年度における、労働災害の発生件数、災害の発生頻度を示す度数率及び災害の強度を示す強度率は、平成22年度と比べて減少しました。

引き続き、重大災害の根絶はもとより、労働災害の未然防止に向けた取組を推進するとともに、心の健康づくり対策にも力を入れるなど、労働安全の確保と心身両面にわたる健康づくりを進めています。

図 - 5 IT活用による事務処理効率化の取組

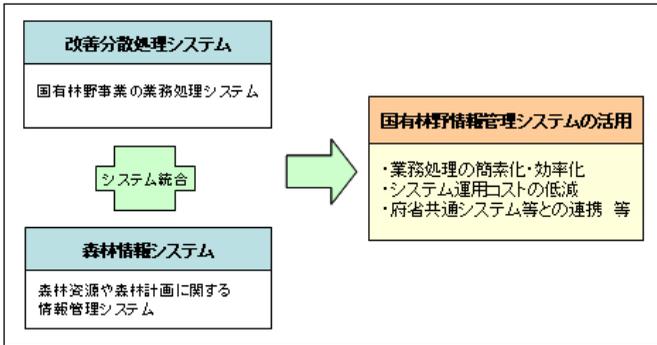


図 - 6 森林GISの活用

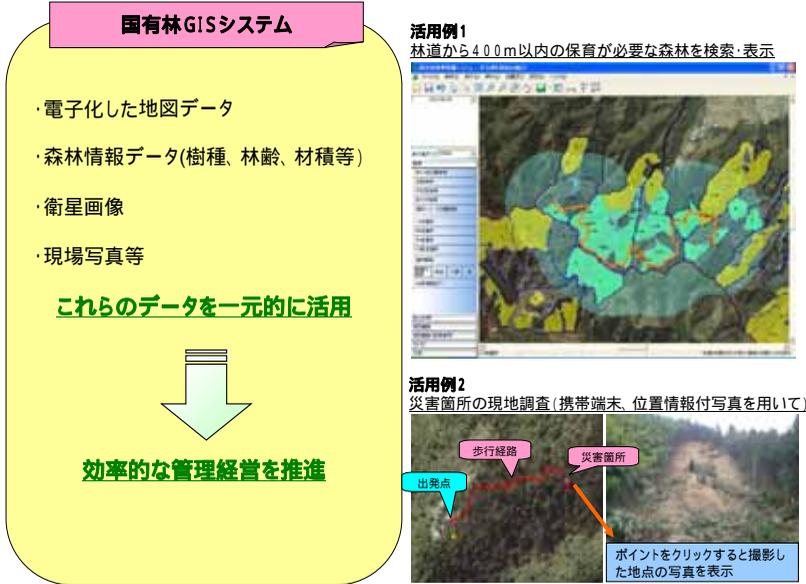


表 - 2 7 労働災害の発生状況

区 分	災 害 発 生 件 数				度数率	強度率
	死亡	重傷	軽傷	合計		
平成23年度	0	13	17	30	2.65	0.05
(参考)平成22年度	0	18	27	45	4.01	0.07

注：1 度数率 = 災害件数 / 実労働延時間数 × 1,000,000

2 強度率 = 労働損失日数 / 実労働延時間数 × 1,000

## ( 2 ) 平成23年度の収支

平成23年度は、自然環境の保全等に配慮を行いながら、林産物の販売量の確保や資産の徹底した見直しによる土地売払いの推進等により収入確保に努めました。

一方、支出については、職員数の適正化や民間委託による森林整備事業の効率的な推進等により、人件費や事業費の縮減に努めました。

こうした一連の収支改善努力の結果、引き続き新規借入金をゼロとし、収入が支出を23億円上回りました。

また、今年度は借入金を21億円返済しました。

表 - 2 8 平成23年度の国有林野事業特別会計の収支

収 入				支 出			
科 目	平 成 23 年 度	平 成 22 年 度	前 年 の 差	科 目	平 成 23 年 度	平 成 22 年 度	前 年 の 差
事業収入	246	261	15	人件費	561	593	32
林産物等収入	217	220	3	定員内職員給与等	455	468	13
林野等売払代	29	41	12	林野基幹作業職員給与等	106	125	19
財産貸付料等収入	48	51	3	事業的経費	745	771	26
雑収入	8	8	1	森林整備費	607	628	21
国有林野事業雑収入	8	8	0	事業費	138	144	6
治山事業雑収入	0	0	0	利子・償還金	2,877	2,783	94
一般会計より受入	1,540	1,623	83	借入金	117	163	46
事業施設費財源	672	713	41	償還金	2,760	2,619	140
公益林等保全管理費財源	334	335	1	交付金等	59	58	0
利子財源	117	163	46	治山事業	347	315	32
治山事業費財源	417	412	5				
地方公共団体工事費負担金収入	30	31	1				
借入金	2,739	2,609	130				
新規借入金	0	0	0				
借換借入金	2,739	2,609	130				
合 計	4,611	4,583	28	合 計	4,588	4,521	68
収 支 差	23	62					

(注) 1 本表は、単年度における発生ベースの収入(販売契約額等)と支出(支払義務の生じた額)をそれぞれ集計したものである。  
2 金額は、それぞれの科目で四捨五入しているので合計額とは必ずしも一致しない。